



令和2年7月豪雨



人吉市での福岡市水道局の応急給水支援 (福岡市水道局提供)

7月3日から全国に大雨を降らせた令和2年7月豪雨では、水道施設にも被害が出て、断水がおこりました。大雨で断水がおきる理由はいくつかあります。水道の施設が浸水して使えなくなること、原水が濁って水道水が作れなくなること、川の水に流されたり土砂がずれて水道管が壊れてしまうこと、停電で水道水を作ったり送れなくなるなどがその理由です。

7月の大雨では、長野県、岐阜県、静岡県、山口県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県などで大雨の影響で3万戸以上の家などが断水しました。

大雨が降ると、水道施設は被害を受けやすい理由があります。

水道水を作る、もとの水を「原水」と言います。原水は地域によってダムの水、川の水、地下水などを使い分けていますが、原水を取る場所は、水がたくさんある所のほうが便利なので、浸水しやすい場所にあることが多いです。水道水を運ぶ水道管も、川の橋や山の道路に設置しなければならぬところがあります。

日本では最近、これまで経験したことがないような大雨が降ることが増えているので、全国の水道局では、浸水しな



なるほどポイント

全国の水道局では大雨が降っても断水がおきないような対策を進めています。大雨が降ると、断水がおこりやすくなります。大雨が降る天気予報が出たときは「断水するか」と考えて、準備をしましょう。

断水が長引きそうときは、全国の水道局が助け合うルールがありますが、各家庭で事前に断水に備えた準備をしておくことは大切です。断水がおきても慌てずに行動しましょう。



飲料水の備蓄目安
1人1日3L×3日分=9L
(首相官邸HPより)

断水がおきたらどうする？

全国の水道局では断水がおきないような対策を進めています。大雨が降ると、断水がおこりやすくなります。大雨が降る天気予報が出たときは「断水するか」と考えて、準備をしましょう。



2016年に発生した熊本地震の時の様子

おきることがあります。大雨だけでなく、地震による被害や古い水道管が壊れてしまったときにも断水がおこってしまいます。

断水はいつおこるか予想できません。断水がおこっている間の飲み水、物を洗う水を各家庭で普段から準備しておくことが大切です。

しかし、たくさんのお水を準備しておくことは難しいことです。そこで、日本の水道局は、断水が長引きそうなときに助け合うことになっています。

日本水道協会という全国の水道局が入っている組織では、大きな断水がおきたときに助け合うルールを作っています。

今回の大雨でも、断水が起きた熊本県の人吉市では、近くの熊本市や、福岡県の福岡市と北九州市が給水車で駆けつけて、断水して困っている人に水を届けました。